

令和4年度学校経営報告

目標と方策	取組と自己評価	達成状況
魅力ある授業、魅力ある行事、魅力ある部活動に取り組み、在校生及び中学生にとって魅力ある高校を実現する。	教員に相互授業観察を年間3回以上行うことを目標にすることを課し、授業力向上に努めた。また、学校見学会を3回、学校説明会を5回実施し、中学生に魅力ある拜島高校について発信することができた。部活動においても、陸上部が都大会出場、卓球部が東京都公立高校大会で3位入賞する等、特に運動部において少しずつ活性化が図られている。 入学者選抜の一次応募倍率は1.06倍であった。	B
近隣小中学校、地域自治会、昭島市との交流を促進するとともに、幅広く募集広報活動を全員体制で展開し、中学生、地域等の外部からのニーズを捉え対応していく。	演劇部が昭島市主催の認知症理解についての寸劇を行い、昭島市の善行表彰を受賞した。また、各部活動で中学3年生向けに体験入部を行うとともに、合同練習を実施した。	B
学力向上研究校事業を活用した基礎ゼミで学び直しを図り、発展ゼミで上位中位の生徒を伸ばし、組織的に学力向上に取り組む。	基礎ゼミを年間11回実施し、対象生徒120人に対して、国語113人、数学110人、英語112人の参加があり、3科目とも成績が上昇した。発展ゼミにおいては数学、英語で補講を実施した他、看護ゼミ、公務員ゼミを実施し、都立看護学校に4人合格、公務員試験に2人合格した。	B
教育のDXを推進し、オンライン教育を含めた学習環境を整えるとともに、予習復習や自宅学習の課題の指示、小テストなどきめ細かな指導等を実施し、生徒の自宅学習、学習習慣の定着を図る。	学習支援サービス Office365 やクラウドサービスのスタディサプリ等を活用して、教育のDXを推進するとともに、生徒一人1台端末の有効活用を目指し情報システム委員会を設置し、円滑な運用を図った。また、特設の校内規程検討委員会を設置して、一人1台端末の使用ルールと校内でのスマートフォンの使用ルールを改善した。	B
全ての教育活動を進路実現に関連付けながら指導し(進路指導重点主義)、進路決定率の高水準を維持する。また、文系・理系ともに進路先を積極的に開拓し、生徒の進路希望実現の選択肢を拡げる。	毎週、学年を含めた拡大進路指導部会を開催し、進路指導部主導でガイダンス・講演会・指導会を年間計画通り実施した。就職指導、看護医療ゼミ、公務員ゼミ、大学進学者の小論文指導、1・2学年向け合格体験講話等を計画通りに実施した。現役進路決定率は96.3%。一般選抜で日本大学に1名合格した。	A
「温かく厳しい指導」のもと、朝SHRの遅刻防止をはじめ、あらゆる教育活動において、時間厳守の指導を徹底する。	登校時の健康観察、朝のSHR、登校時の挨拶等の取組を行った。時差登校から通常時程の登校に戻した結果、遅刻者数は増加した。遅刻指導については各学年が粘り強く指導した。	B
社会人として、また良好な人間関係を築くうえで基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、あわせて挨拶を交わす指導を徹底する。	進路指導部が中心となり、各学年の進路ガイダンスを毎学期実施し、社会人として必要な身だしなみ、マナー、日常会話の常識等の指導を行った。	A
学校いじめ対策委員会を中心に、スクールカウンセラーとの連携を密にし、組織的に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、自殺防止に向けて取り組む。	いじめ防止の徹底を図るため、いじめ防止委員会を年間7回実施するとともに、いじめ防止教室を年間3回実施した。また、特別支援委員会を年間17回実施し、学校全体で生徒の問題行動や見守りが必要な生徒の把握に努めた。	A
部活動加入率を高める工夫を行い、全部活動の活性化・充実を図る。また、全校共同作業の「巨大貼り絵」を継続する。	部活動の活性化を図るため、部長会議を開催し、部室の整理整頓を行わせ、生徒による主体的な取り組みの定着化を図った。「巨大貼り絵」を全校生徒で取り組むことができた。また、高専連携として専門学校と連携し、「巨大貼り絵」にプロジェクションマッピングを投射し、文化祭で披露した。	C
体力テストや体育祭等の体育的行事を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、一層の体力向上を目指す。	感染防止対策を徹底し、体育祭を全校実施で開催することができた。	B
計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、年次有給休暇の計画的な取得を推進する。	計画的な年次有給休暇取得を呼びかけ、職員のライフ・ワーク・バランスの安定を図った。また、毎回の企画調整会議を50分以内、職員会議を60分以内で終了した。	A

数値目標			
令和4年度の実績		3年度 ← 2年度 ← 31年度 ← 30年度	
①	入学者選抜 推薦応募倍率	2.09倍	1.70倍 ← 3.24倍 ← 2.61倍 ← 2.00倍
②	入学者選抜 一次応募倍率	1.06倍	0.94倍 ← 1.25倍 ← 1.19倍 ← 1.05倍
③	ホームページ更新回数	256	188 ← 260 ← 257 ← 356
④	入学してよかったと思う生徒の割合	76.3%	80.7% ← 66.2% ← 74.2% ← 81.4%
⑤	授業に対する生徒の満足度	75.0%	77.2% ← 70.8% ← 64.1% ← 62.4%
⑥	進路指導に対する生徒の満足度	89.1%	91.7% ← 82.5% ← 80.0% ← 71.5%
⑦	進路決定率	96.3%	98.3% ← 95.2% ← 98.0% ← 96.2%
⑧	一年間の延べ遅刻回数	3971回	2834回 ← 3265回 ← 4975回 ← -
⑨	部活動加入率	49.3%	66.0% ← 64.3% ← 62.0% ← 62.0%

<次年度以降の課題と対応策>

項目	課題	対応策	重要度
学習指導	基礎学力の向上	① 外部模試を活用した生徒の学力分析を行い、学力の到達目標を具体的に設定し共有することを通して、組織的な授業改善を進める。 ② 「学力向上研究校」（寺子屋事業）を最大限活用して、生徒の基礎学力向上に取り組む。 ③ グランドデザインに基づいた計画的な教育活動、学習指導を実践する。 ④ 学校での補習・補講のみならず、家庭学習時間の確保に工夫・改善を図る。	A
進路指導	進路に対する意識向上と進路実現	① 3年間を見通したキャリア教育の全体計画を再度見直し、生徒の実態に即して適宜修正を加えるとともに、進路指導部主導の進路活動や進路行事を組織的に挙げる。 ② 3年間を見通して計画的な進路指導を実践し、生徒の希望する進路実現に取り組む。 ③ 保護者へ向けた進路情報の発信について工夫・改善を図り、保護者への進路に関する啓発活動や保護者との連携した指導を充実させる。	A
特別活動	部活動の活性化と加入率の上昇	① 4月に行われる部活動紹介の充実を図り、長時間の活動を無くし、平日1日、休日1日以上活動しない日を設け、無理のない部活動実践に取り組む。 ② 専門競技の指導ができる教員を有効的に顧問配置して、生徒が継続して活動できる体制づくりに取り組む。 ③ 部活動運営の適正化に向け、部活動指導員等外部指導者を必要に応じて活用し、部活動顧問の業務改善を図る。	A
その他	働き方改革の推進	① 必要に応じて産業医による面接を実施したり、計画的な年休取得を促進したりすることにより、心身の健康の保持・増進を図る。 ② 職層に応じた役割分担を明確にし、業務改善に組織的に取り組むことにより、業務の効率化を図り、在校時間の削減に努める。	B
	いじめ対策	① いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、全教員でいじめを未然に防止する校内体制を整える。 ② 学級活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、学校や学級における豊かな人間関係構築の取組を推進する。 ③ いじめや自死の抑止に向け、生徒がSOSを発信しやすい学校づくりやSNS東京ルール周知徹底の取組を強化する。	A
	悩みを抱える生徒や問題行動が心配される生徒への対応	① 不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対して、担任・特別支援教育コーディネーター・SC等が連携をとり、すべての教職員が情報の共有を図ることができる校内体制を確立する。 ② 学級担任は、保護者との連携を密にし、必要に応じて外部機関との連携を図り、生徒への適切な支援に努める。 ③ 特別支援委員会を定期的に開催し、全教職員が生徒の情報共有に努め対応にあたる。	B